

[A]

1

(1) ア $(-3)^2 - 4 \times 3 = 9 - 12 = -3$

答 -3

イ $\frac{5}{4}a^2 \div \frac{15}{2}a = \frac{5a^2}{4} \times \frac{2}{15a} = \frac{a}{6}$

答 $\frac{a}{6}$

(2) 6 の平方根

答 $\pm\sqrt{6}$

(3) $a^2 - 4 = (a + 2)(a - 2)$

答 $(a + 2)(a - 2)$

(4) $(x - 2)^2 + (x - 2)(x - 4) = 0$

$(x - 2)(x - 2 + x - 4) = 0$

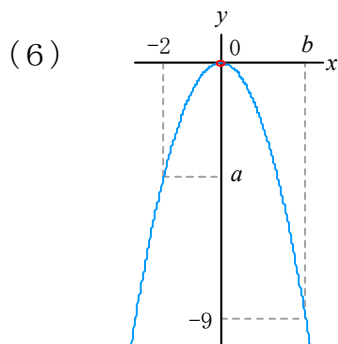
$2(x - 2)(x - 3) = 0$

$x = 2, 3$

答 $x = 2, 3$

(5) 15 以下の素数

答 2, 3, 5, 7, 11, 13



$a = -(-2)^2 = -4$

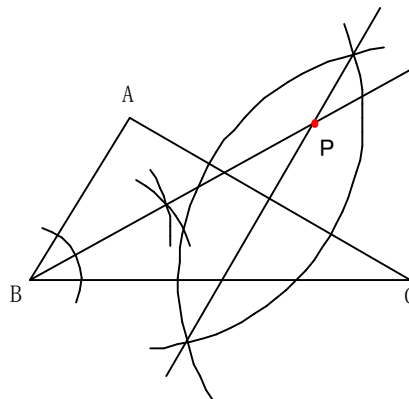
$-9 = -b^2$

$b^2 = 9$

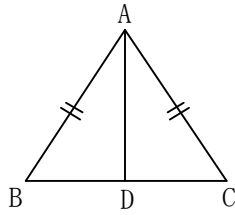
$b = \pm 3 \quad (b > 0) \quad b = 3$

答 $a = -4, b = 3$

(7) 答 右図



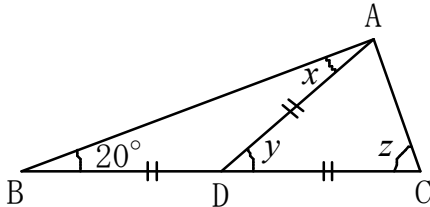
2 (1)



答 ア $\angle CAD$

イ 2組の辺とその間の角

(2)



$$x = 20$$

$$y = 20 + x = 20 + 20 = 40$$

$$y + 2z = 180^\circ$$

$$40 + 2z = 180$$

$$2z = 140 \quad z = 70$$

答 $\angle x = 20^\circ$, $\angle y = 40^\circ$, $\angle z = 70^\circ$

(3) ア

階級(kg)	度数(人)	相対度数
18 ^{以上} ~ 20 ^{未満}	1	0.04
20 ~ 25	3	y
25 ~ 30	4	0.16
30 ~ 35	4	0.16
35 ~ 40	10	0.40
40 ~ 45	x	0.08
45 ~ 50	1	0.04
計	25	1.00

$$x = 25 - (1 + 3 + 4 + 4 + 10 + 1) = 25 - 23 = 2$$

答 $x = 2, y = 0.12$

$$y = \frac{3}{25} = 0.12$$

イ 中央値とは、データを小さい順(または大きい順)に並べたときの中央の値
 データの数が偶数のときは、中央の2つの値の平均値
 データの数は25(奇数)だからその中央は13番目である。13番目のデータが入っている階級は、35以上40未満

階級(kg)	度数(人)	
18 ^{以上} ~ 20 ^{未満}	1	1.00
20 ~ 25	3	4.00
25 ~ 30	4	8.00
30 ~ 35	4	12.00
35 ~ 40	10	22.00
40 ~ 45	2	24.00
45 ~ 50	1	25.00
計	25	1.00

←1番小さいデータ
 ←2番から4番までのデータ
 ←5番から8番までのデータ
 ←9番から12番までのデータ
 ←13番から22番までのデータ
 ←23番から24番までのデータ
 ←25番のデータ

答 35kg以上40kg未満の階級

3

[きまり]
 ○ 1枚の硬貨を4回投げ、投げた順に表か裏かを記録する。
 ○ 記録した表裏に従って1kmごとに順に進む方法を決める。進む方法は、表の場合は「歩く」、裏の場合は「走る」とする。ただし、裏であっても、その直前の区間で「走る」場合は「歩く」ことにする。
 ○ 後もどりせずに1周する。

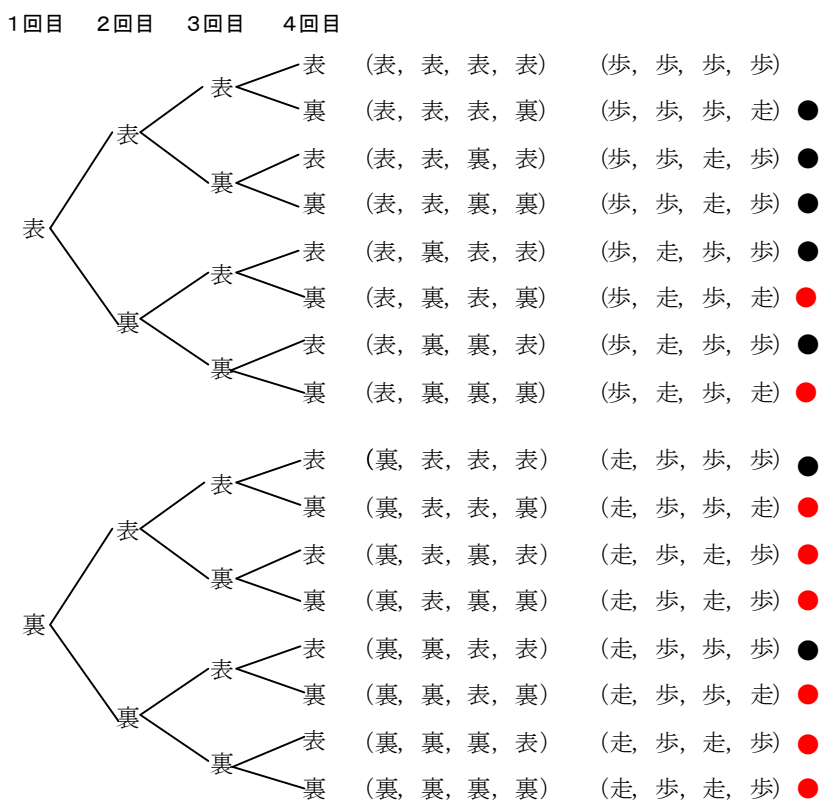
例：硬貨を4回投げたとき、表裏裏表の順に出た場合の硬貨の記録と進む方法

	1回目	2回目	3回目	4回目
硬貨	表	裏	裏	表

↓ ↓ ↓ ↓

	1kmまで	2kmまで	3kmまで	4kmまで
方法	歩く	走る	歩く	歩く

硬貨の表、裏の出方は全部で $2^4 = 16$ とおおり。参考までに、この16とおりを全部書き出し、「きまり」にしたがって、歩く、走るを整理すると下記のようなになる。



(1) 歩くが2回と、走るが2回の場合で (上図の赤丸)

$$12 \times 2 + 6 \times 2 = 24 + 12 = 36$$

答 36(分)

(2) 歩くが3回と、走るが1回の場合で (上図の黒丸)

$$(12 \times 3 + 6 \times 1 = 36 + 6 = 42)$$

16回中7回あるので、求める確率は $\frac{7}{16}$

答 $\frac{7}{16}$

- 4 (1) 今日仕入れる鮭の個数は、昨日の鮭の個数(600個)より30%減らすから、
 $600(1 - 0.3) = 600 \times 0.7 = 420$ 答 420(個)

- (2) ア 昨日仕入れた昆布の個数を x 個、明太子の個数を y 個
 昨日仕入れた昆布と明太子と梅の合計は150個 だから、
 昨日仕入れた梅の個数は、 $150 - (x + y)$ 個

今日仕入れる昆布の個数:昨日の鮭の個数の5%増 $x + 600 \times 0.05 = x + 30$

今日仕入れる明太子の個数:昨日の鮭の個数の10%増 $y + 600 \times 0.1 = y + 60$

今日仕入れる梅の個数:昨日の鮭の個数の15%増 $150 - (x + y) + 600 \times 0.15$
 $= 150 - x - y + 90$

今日仕入れる昆布と明太子の合計数: 220 個

$$(x + 30) + (y + 60) = 220$$

今日仕入れる鮭と梅の合計: 明太子の5倍

$$420 + (150 - x - y + 90) = 5(y + 60)$$

以上より、

$$\text{答 } \begin{cases} (x + 30) + (y + 60) = 220 \\ 420 + (150 - x - y + 90) = 5(y + 60) \end{cases}$$

$$\text{イ } \begin{cases} (x + 30) + (y + 60) = 220 \text{-----①} \\ 420 + (150 - x - y + 90) = 5(y + 60) \text{----②} \end{cases}$$

$$\text{①より } x + y = 130 \text{-----①'}$$

$$\text{②より } x + 6y = 360 \text{-----②'}$$

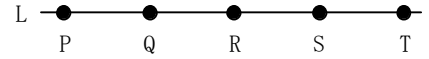
$$\text{②' - ①' } 5y = 230 \text{ , } y = 46$$

$$x = 130 - y = 130 - 84 = 46$$

$$\text{答 } \begin{cases} x = 84 \\ y = 46 \end{cases}$$

5 (1) 点Aの x 秒後の点Pからの位置 $y = ax$

図1



ア $a=2$ で, 2秒後の

点Aの位置 $y = ax = 2 \times 2 = 4$

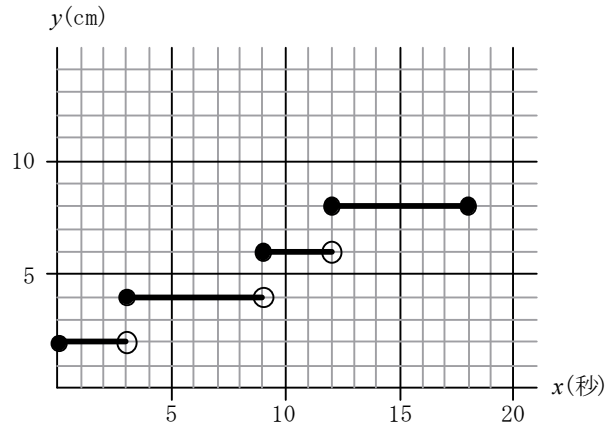
点Bの位置 $0 \leq x < 3$ のとき, 点Q上にあつて, $y=2$

答 点A $y = 4$

点B $y = 2$

イ 答 右図

図2



ウ $a = \frac{2}{3}$ のとき, 点Aは点Bと $y = 4, 6, 8$ で交わる。(下の図2参照)

$$y = \frac{2}{3}x \rightarrow x = \frac{3}{2}y$$

$$y = 4 \text{ のとき } x = \frac{3}{2} \times 4 = 6$$

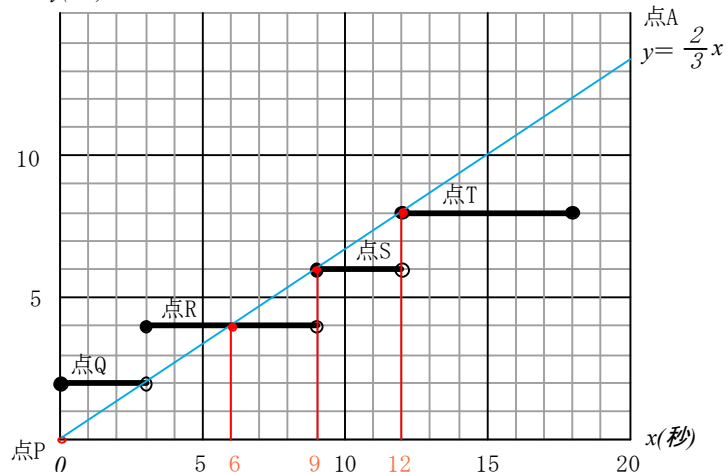
$$y = 6 \text{ のとき } x = \frac{3}{2} \times 6 = 9$$

$$y = 8 \text{ のとき } x = \frac{3}{2} \times 8 = 12$$

答 $x = 6, 9, 12$

図2

$y(\text{cm})$



(2)

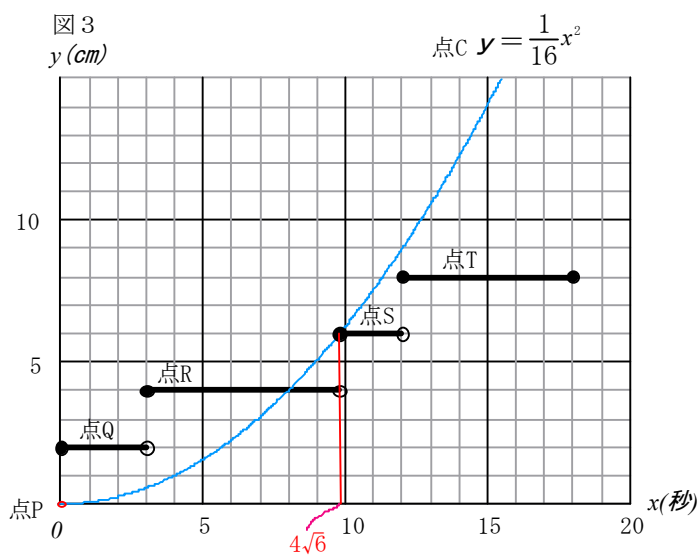
$$y = \frac{1}{16}x^2 \text{ より, } x^2 = 16y$$

点Cと点Dが2回重なるうちの大きい方は (図3参照)

$$y = 4 \text{ のとき, } x^2 = 16 \times 4 \quad x = 8$$

$$y = 6 \text{ のとき, } x^2 = 16 \times 6 \quad x = 4\sqrt{6} \text{ —○}$$

答 $4\sqrt{6}$



以上